

読んだ本

(作)マイケル・モーバーゴ 絵)マイケル・フォアマン 訳)さくまゆみ岩崎書店

「モーツァルトはおことわり」

川崎市立旭町小学校五年

うえだあやな
上田 絢菜

この本は、世界的に有名なバイオリニストの「パオロ・レヴィ」という人の親の秘密をめぐる物語です。この本は、特に小学五年生に向けて読んでほしいです。

この本を推薦する理由は、聞いたことはあるが、詳しいことは知らないというのが多い、ユダヤ人の強制収容所について登場人物の経験として出てくるからです。

さらに、「音楽」というものの在り方についても触れることができるからです。ユダヤ人の強制収容所での出来事を通して「音楽」というものはどんなもので、どんな使われ方が正しいのかがよくわかります。

また、五年生に読んでほしい理由は、漢字が五年生までに習ったものが多く、少し難しい漢字にはふりなががあるからです。話の流れもつかみやすく、なぜ題名が「モーツァルトはおことわり」なのかが少しずつわかって、はつきり理由がわかると納得できるからです。

この本は、絵もわかりやすく、想像するのが難しい強制収容所の話になるほど絵が増えてきて、イメージしやすいです。また、情景描写の使われ方がうまい具合に使われていきます。とても読みやすく、興味深い話なので、ぜひ音楽や強制収容所について気をつけながら読んでみてください。